

INDEX

平成23年度総会	1～2
新旧会長挨拶	2
会員企業訪問・(南)高山測量	3
臼井先生寄稿・例会報告	4
会員異動/スケジュール	4

創立20周年の節目、新体制スタート

— 「日本人の誇りは失われず」臼井先生が特別講演 —



3月11日に発生した東日本大震災により、3月度の朝食例会が急遽中止となるなど当会や会員企業も少なからず被害・影響を受け、いまだ復興の足がかりも見出せない中の6月4日(土)、平成23年度月星会定時総会がホテルグリーンタワー千葉を会場に定刻の午後6時に開会されました。

阿佐会長挨拶の後、伊藤嘉國氏を議長に大浦義信氏を議事録署名人に選出し早速議事に入りました。第1号・第2号議案の報告事項の説明があり、会員よりの質問を受け、監査報告。一括採決の結果拍手で承認されました。

その後第3号議案～第5号議案の新年度活動方針・活動計画案、予算案、役員・委員会構成案は加藤副会長より詳しく説明されました。

新年度の活動方針として、〈1、例会及び経営研修会の内容の一層の充実を図る。2、より多くの会員が集う場を提供する。3、創立20周年行事の実行委員会を立ち上げる。〉の3点を掲げ、それに伴う予算・役員構成が提起されました。採決の結果それぞれの議案は満場一致の拍手で承認され、穴倉幹事長の閉会挨拶で終了しました。

続いて同会場第2部の臼井先生による特別講演会「今、日本に何が起きているのか～東日本大震災発生で思うこと～」をテーマにお話頂きました。菅内閣の不信任案の否決の

一方で未曾有の大震災の被災地では国会の現状に強い怒りを示している。津波発生時多くの警察官、消防隊員、福祉施設の青年、防災放送の女性職員等自分を犠牲にして住民を避難誘導した等々。それに自衛隊員の英雄的な活躍を見ると日本人の誇りは失われていないと感じた。被災地報道は涙なくして見ていられない。内閣、原子力安全(委)、東電の一体感のなさを目の当たりにするにつけ、原発メルトダウン後の海水注入を継続した東電の吉田所長は、いわば日本の宝であり、上司の命令があっても自分の判断でより正しい行動ができる人物が居ることが分かり、まだ日本人は大丈夫だと思えた。民主党は永住外国人参政権、夫婦別姓、人権擁護等の法案を出そうとしているが、いずれも日本の根幹を揺るがす法案であり地方自治でも看過できない。駄目な民主党政権に対し我々はしっかり注視していく必要があるなどのことを熱く語りました。

恒例の先生を囲んでの記念撮影の後、会場を変え第3部の役員任命式・懇親会へと進みました。片野洋子さんの司会で阿佐会長・臼井先生の挨拶の後、加藤会長、高柳幹事長以下新役員が登壇し、臼井先生から新会長に認証状が渡されました。岩田直前会長の乾杯で懇親会が始まり、予定の時間まで和やかな宴が続きました。(事務局 川名利夫)



新年度会長挨拶

新会長 加藤 隆

会長になって2ヶ月が過ぎました。順調に23年度が滑り出したように思われます。月星会とはたいしたものですよ。これも過去20年間先輩諸氏が努力してきた賜物と感謝しております。考えてみると戦後生まれの初めての会長らしいです。

月星会創立以来在籍しておりますが、昔は若い連中と言われ、さんざん雑巾がけ?をやらされてきたような気がします。私も気がついてみたら還暦も過ぎ、周りに昔の私達のような人がたくさんいます。これからの月星会を担っていただかなければならない人達です。今年のキーワードとして「これからの月星会」が大きなポイントとなると思います。各セクションが自主性を持って月星会の理念の下、行動しなければなりません。組織として会長一人が旗を振って頑張ったところで良い結果は期待できません。皆さんの行動が、月星会を発展させるポイントとなりますので、今以上に新しい企画を提案し、全員で行動しようではありませんか。

昨年の副会長就任の挨拶でも述べましたが、月星会のような組織、特に会長が1年任期になった今は「不連続の連続」なのです。会長は不連続でも内部は連続なのです。したがって今年度は各セクションの委員長は事情が許す限り昨年に引き続いてお願いしてありますし、それができない場合でも昨年の方の委員長となったり、アドバイザーとなったり連続部分を作ることを考えました。

月星会は今年度創立20年を迎えます。そのような年に会長に就任するとは運が良いのか、悪いのか、終わってみなければ分からないのですが、来年1月には記念式典を催す予定しております。すでに実行委員長には山本元会長をお願いしてあります。また、実行委員は各委員会から若手を中心に選出をお願いしてあります。若手の活躍の場としては絶好の機会だと思いますので、是非会員の皆さんも応援して成功させようではありませんか。今年度1年よろしくお願い致します。

ご協力ありがとうございました

直前会長 阿佐 幸雄

顧みますと会長としての本年5月までの3年間は、臼井日出男先生の勇退、そして臼井正一県議の国政出馬そして落選、民主党政権誕生など、会を取り巻く環境が大きく変わった時にあって、会員数の大幅な減少もなく、加藤会長に引き継ぐことができました。

研修会も定期講演会のほかミニ研修会を開催したり、朝食会も夜例会も行うことも出来ました。情報の円滑化を目指した会報の隔月発行・カラー化、永年の課題であった事務局の自立も無事に行うなど、当初の目的を果たし尚かつ大過なく任期を全うすることができました。

これもひとえに支えて下さった会長経験者や役員の方々、また会活動に参加してご協力くださった会員の皆様のお陰だと心より感謝申し上げます。

今年度は新生月星会となって20周年を迎えます。会費制でないときの登録者は200名ほどいましたが、新生月星会創立の時は会費を払っている会員はわずか40名ほどということからのスタートでした。

当然会費収入が足りず、行事計画を行うために幹事長、副会長など役員の方々から100万円を借入れて、スタートしたことが思い出されます。

年2回の会報への広告収入で会運営を軌道にのせましたが、借入金の返済を行うことが出来たのは6年ほど後のことでした。

現在の会員数は110名ですが、経営者の資質向上を図る異業種の会という目的を忘れず、来年1月28日の20周年記念祝賀会を、若い会員が増える契機にして欲しいものです。

新生・加藤隆丸の健闘を祈っています。みんな一丸でやり遂げましょう。

第6回 (有)高山測量事務所

「掃除」との出会いが会社を救った!

経営理念は「楽しく生き生き」

一日は、掃除に始まる

高山尚士社長の毎日は掃除から始まる。

出勤は、朝の6時過ぎ。まず前夜の所内業務をチェックし、終わると外に出て会社の周辺を掃除する。周辺といっても、会社の敷地周りだけではない。会社につながる道路、近くの公園、バス停、排水溝、ゴミ置き場等々、周辺数百メートルぐらいまでのゴミや空き缶などを拾い、ほうきで掃いてきれいにする。

いつの間にか社員が一人、二人と参加。始業の少し前になると皆、会社に戻って通常の業務が始まる。

これが高山測量事務所の朝の風景である。

社員たちにとってこの掃除は仕事ではないし、必ず毎朝早く来て掃除することを義務づけているわけではない。しかし、職種にかかわらずほとんどの社員は自主的に毎朝、掃除を行っている。何時に来るか、どこを掃除するかは、一人ひとりの自由意思だ。

「採用の際の条件にしているのです。掃除が嫌だったら残念ながらわが社には入れません、と」

推測するに、社員たちは最初のうちは喜んで掃除しているわけではなく、たぶん「約束だからしょうがない…」という気持ちだったに違いない。ところが、1カ月、2カ月と義務的に続けていくうちに、やがて気持ちが逆転していくのであろう。

なぜそうなるのか。高山社長が主宰していた「千葉掃除に学ぶ会」のウェブサイト、そのヒントがある。

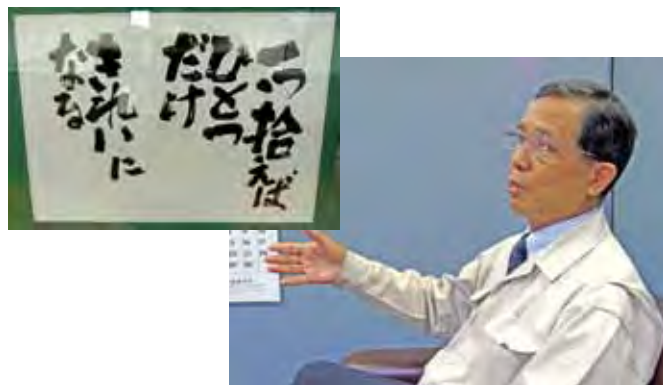
同会は、県内小中学校のトイレ掃除活動を続けているが、同サイトに「なぜトイレ掃除なの？」との問いかけがあり、5つの答えが列挙されている。

〈1. 謙虚になれる 2. 気づく人になれる 3. 感動心を育む 4. 感謝の心が芽生える 5. 心を磨く〉

なぜ謙虚になれるのか、なぜ気づく人になるのか等々は、サイトに書かれているので関心のある方は覗いてほしい。この5つの答えを一括りにするならば、「己の人的成長」という言葉で括れるのではないだろうか。

そう。社員たちは、掃除を続けているうちに自分の心がおだやかになっていることに気づくのである。そして掃除で毎日工夫することにより気づきが生まれてくる。今まで気がつかなかったキメ細かいことにも気づくようになり、お客様からの信用を得られる仕事ができるようになってきたのである。ところで、高山社長が掃除にのめり込んだきっかけは何だろうか。

「きっかけは、『凡事徹底』という、ベストセラーになった本です。この本を読んで感銘を受け、著者の鍵山さんに



お会いして掃除の大切さを教えていただいたのです」

「鍵山さん」とは、イエローハットの創業者で現相談役の鍵山秀三郎氏のこと。平成5年にNPO法人「日本を美しくする会」をつくり、学校のトイレ掃除をする活動などを展開し、掃除の効用を全国に広めた。

著書の『凡事徹底』は、企業経営者など多くの組織リーダーに影響を与え、現在もロングセラー本として売れ続けている。高山社長も、当たり前を当たり前続けることの大切さをこの本に学び、「凡事」の代表ともいえる掃除を徹底して続けるようになったのであろう。その気持ちが、今では社員に自然な形で伝播している。

掃除による気づきが営業につながる

掃除は、会社の利益を直接的に生み出すことはないが、結びつきはある。たとえば、測量現場の掃除。

「わが社の社員は、測量の現場に着いたら10分間まず現場周辺の道路など、掃除から始めています」

平成3年、不動産融資の総量規制に端を発したバブル経済の崩壊は、高山測量を危機的な状況に追いやった。父親から事業承継してから9年目のことだった。

「毎年3割ずつ仕事が減りました。手形は切っていなかったし、不動産投資などには手を出していませんでしたが、3年分の内部留保が底をつき始めたのです」

その危機をどのように突破したかを問うと、高山社長は迷わず「掃除じゃないでしょうか」と答えた。

「掃除をしていると、想像もしなかった良い出会いが生まれるのです。その出会いが仕事に結びつき、評価されればまだ新しい出会いが生まれる。そうした好循環ができていったのです」

会社周辺の掃除も、測量現場の掃除も、見ている人は見ているのである。いつの間にか「毎日掃除をしている測量会社」の名が広まり、営業しなくても民間の仕事を紹介されるようになった。

そして、掃除をすることによる「気づき」が、キメ細かい対応のできる仕事へとつながっているのである。

高山測量の経営理念は、平成12年に社員たちと一緒に作った「楽しく生き生き」。掃除と仕事の絶妙なコンビネーションが、この経営理念を実現しているように感じる。

(取材・文/奥平。今回は高山社長の紹介で特サンライフを予定しています)。

日本の未来を占う

本年、日本は二つの出来事で、世界を驚かせた。

前衆議院議員 白井日出男

いうまでもなく一つは「東日本大震災」であり、いま一つは、女子サッカーワールドカップにおける「なでしこジャパン」の世界制覇である。

世界の人々が東日本大震災で驚いたのは、その惨状もさることながら、あれほどの被害を受けながら“被災者が誠に冷静に秩序正しく忍耐強く耐え抜いている”という姿だ。

この点ではなでしこジャパンの強さは、あのアメリカの強烈な猛攻を耐え抜いて勝利した忍耐強さと選手同士の信頼にあったという点で共通点がある。あのアメリカ戦を観て、感激で涙を流した私としては、なでしこジャパンが国民栄誉賞を受けるのも当然と考え拍手を送りたい。

しかし私の基準から言えば、もう二人「国民栄誉賞」をあげてもらいたい人がいる。その一人は「福島第一原発の吉田昌郎所長」であり、いま一人は、中国漁船の日本の海上保安庁艦艇に故意に衝突したビデオを公にした「元那覇海上保安官の一色正春氏」である。

この二人に共通しているのは、ともに組織に抵抗して我が国の安全と誇りを護ってくれたという点だ。

吉田所長は“海水注入”を菅総理の機嫌伺いのために、中止命令を受け、「了承」を報告しながら、実は中止しなかった。吉田所長にすれば「この緊急時に中止を指示する上司に対し何をかいわんや」だったのだ。この行為でさらなる水素爆発は避けられ日本は救われた。

一色氏は、漁船との衝突事故につき、中国は「衝突したのは日本船である」と主張し、世界の判断もそれを支持する流れとなった。一部始終を記録したビデオを公開すれば一目瞭然で日本の主張が正しいことが立証されるのだが、日本は組織として公開をしようとはしなかった。そこで“自分しか公にすることは出来ない”と決断してネットに公開した。これによって日本の正しさが明らかになり、日本の誇りは守られた。

これらに共通してわかることは、いかに個人としての日本人が優れているか、一方、組織としての日本が、現管内閣以下、大きく揺らいでいるかだ。私は、これら“個人としての優れた日本人”がいる限り日本は大丈夫だと信じる。

定例朝食会報告

毎月第2土曜日 午前7時開会 ホテルグリーン・タワー幕張

本年度は、6月11日より昨年度に引き続いて、会内外の講師に卓話を聴く定例朝食会を開催しています。

6月は門山綜合法律事務所の門山宏哲氏に「会社のリスク管理、要注意労務管理」をテーマに、7月は(有)東葉企業の小川智之氏に「傍聴に行こう！～議会を100倍楽しむ方法」をテーマに講演して頂きました。

8月は今年度初の会外の講師として萬徳院釈迦寺の大僧正でおられる竹田明秀氏に「釈迦の教＝人間学 八大基本」として仏教の教えについて講演して頂きました。

これからも多様な講師をお招きする予定となっております。今年度は夜例会も開催することとなっておりますので、ぜひ出席して頂きますようお願いいたします。



9・10月のスケジュール

9/4(日)	経営研修会「被災地体験交流ツアー」 参加費5,000円 集合7:30NTT前 行先 北茨城市商工会
9/10(土)	定例朝食会 7:00開会 参加費 2,000円 会場: ホテルグリーンタワー幕張
9/14(水)	役員会 18:30開会 プラザ菜の花
10/8(土)	定例朝食会 7:00開会 参加費 2,000円 会場: ホテルグリーンタワー幕張
10/12(水)	役員会 18:30開会 プラザ菜の花
10/22(土)~23(日)	研修親睦旅行「上高地・松本方面」 参加費 25,000円(予定)

会員異動

退会 鈴木徹雄氏 ちば債権回収株式会社 理由私事
橋場隆夫氏 (株)高建築設計事務所 理由私事
中務將義氏 (株)中務工務店 理由私事

社名変更

吉田光一氏 メットライフアリコ千葉中央A/O
伊藤公俊氏 メットライフアリコ霞ヶ関A/O
※アリコジャパンの親会社変更のため

新年度に入って初めての会報をお届けします。昨年度までは隔月で発行していましたが、今年度は「創立20周年祝賀行事」が催される特別な年度という事情から季刊(年4回)となりました。「3カ月ごとだと気合が抜けて…」とは、某若手編集スタッフのつぶやき。それだけ緊張感をもって会報づくりを行っているとお察しください。

定時総会から2カ月余りが経過しました。当日の白井先生・特別講演は、やはり東日本大震災についての話が中心でした。震災から5カ月が過ぎますが、被災地の復興はまだまだ見通しがついていません。それどころか、原発事故の影響がとどまることなく広がっています。白井先生の今号特別寄稿にもあるように、「個々の日本人は優れている。しかし政治が揺らぎ続けている」ことの現れなのでしょうか。月星会は“優れた個人の集まり”ではないかと思えます。次世代の日本を担う子どもたちに思いを馳せ、より前向きな活動を続けていきたいですね。(産方)